



観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



公益社団法人国際観光施設協会 推薦
公益社団法人石川県木材産業振興協会
能登ヒバコーディネーター
関軒製材所 代表

関軒 明宏

序章

令和6年元日の能登半島地震、同年9月の奥能登豪雨、能登半島を襲った二つの天災は能登に生きる私たちに大きな被害をもたらしただけでなく、私たちはそう遠くない未来に訪れる過疎地の課題とも直面することとなった。しかし、被災地となった能登には全国から

の心温まる支援（人材・物資）が届き、復旧・復興が始まった。能登が再び輝きを取り戻すためには支援に頼るだけでなく、私たち自身が能登の宝（地域資源）を活用して全国へ、全世界へ、逆境から立ち上がる能登を実現し、発信していくことが大切と考える。

能登の宝 アテ 杉と能登ヒバ

能登半島に分布するヒノキアスナロで昭和41年10月に石川県の木に指定されたアテは能登独自の呼び名です。桧よりもヒノキチオールを多く含み、強度、耐湿性、耐蟻性が高く、古くから能登の暮らしと深い関わりがあった。林業、建築のみでなく輪島塗の木地やお祭りの神輿・キリコ等にも使われ、まさに能登の文化そのものです。

能登のアテは製材品として能登以外での流通をきっかけに平成5年頃から能登ヒバと名付けられた。現在では立木・丸太をアテ、製材品を能登ヒバと使い分けしている。能登ヒバはこれまで

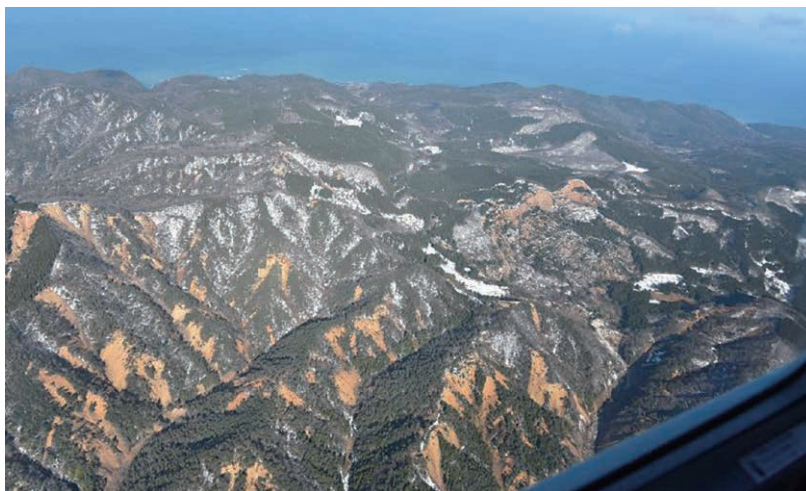
主に建築材や漆器の木地、神輿やキリコなどに使われていた。近年ではその特質を活かしたアロマ関係への活用も増えてきている。また、新たに能登ヒバでの楽器制作プロジェクトもある。



輪島市門前町浦上地区

ATE-NET

今年2月、石川県木材産業振興協会と能登森林組合が中心となって「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興プラットフォーム」を立ち上げ、ウェブサイト「ATE-NET」を開設した。併せて、令和7年2月26日、金沢市で「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興フォーラム」を開催、翌日には奥能登での現地視察も実施。さらに、共に能登ヒバの魅力発信や商品作り等をしていく「能登ヒバサポーター」に15団体が登録し、今では30を超える団体・個人



大規模面的に山腹崩壊が発生（輪島市町野地区～珠洲市若町） ※提供：石川県



<http://ate-net.jp/>

能登を伝える④ 能登ヒバで三方よし アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興

公益社団法人国際観光施設協会 推薦
公益社団法人石川県木材産業振興協会 能登ヒバコーディネーター
関軒製材所 代表

関軒 明宏

が登録している。以来、アテ林業・能登ヒバを活かした新規事業の創出や商品開発に向けた問い合わせも多く、多種多様なマッチングが行なわれており、アテ林業・能登ヒバに無限の可能性を感じる。

能登ヒバコーディネーター

ここで自己紹介します。私は石川県七尾市で小さな製材所を営んでいる。父が昭和45年に創業し、時代の流れとともにロシア材既製品工場から、地元建築業者向けの製材となり、現在は増改築への材木販売と化粧材を取り扱うことで、ローカルの強みを持った経営を行なっている。

令和5年4月に地元の矢田郷地区まちづくり協議会事務局長に就任。昔でいう公民館長である。矢田郷地区コミュニティセンターは令和6年地震発災から、市内最大の避難所となり同年9月8日の閉鎖まで、私は避難所運営責任者を務め、252日間、製材と避難所を行き来した。避難所には国内外からたく

さんの支援が届き、本当に感謝の毎日であった。今は、そのお返しとして能登復興のために自分が出来ることをやっというと思っている。その思いで能登ヒバコーディネーターを引き受けた。アテ林業・能登ヒバのエキスパートではないが、一緒に学び、考え、行動しながらコーディネートしていきたい。

能登ヒバの可能性

話を能登ヒバに戻そう。能登ヒバの可能性は「能登ヒバ」の材質・特質はもとより、能登の暮らし・文化そのものだからこそ、その活用が能登の創造的復興に繋がる。昭和41年にアテが石川県の木となり、平成23年に「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定、そして令和5年に「アテ林業」が林業遺産に登録された。アテ林業・能登ヒバを活かした新規事業の構築や商品開発にはこれらのバックグラウンドを結び付けてこそ創造的復興であり、能登の生業の再構築に欠かせないと同時に、地域貢献にも無限の可能性を感じる。

能登ヒバで三方よし

近江商人が大切にしていた商売の理念、「売り手よし、買い手よし、世間よし」、能登ヒバコーディネーターとしてこの考え方を復興プロジェクトで表すと、「売り手よし」は地域資源であるアテ林業・能登ヒバの活用、「買い手よし」は購入者に価値（体験・木材・香り・デザイン等）を届ける、「世間よし」は地域の復旧・復興・生業再建・経済活性化等に貢献するといった流れになる。まさに三方よしの創造的復興プロジェクトである。一人でも多くの皆様と一緒に「能登ヒバで三方よし」を実現していきたい。

最後に

能登に足を運んで、今行ける能登で祭りや食、里山里海を楽しんでください。あるいは、能登ヒバで空間を彩り、香りを楽しみ、能登に思いを寄せ、能登を応援してください。

能登ヒバの香りが満ちる能登の里山里海は今日も息づいています。災害の傷跡はまだ大きく残りますが、山も街も人も再び歩み出しています。能登が輝きを取り戻す物語は皆さまの応援と共にこれからも続いていきます。私たちの心の復興は、もう始まっているのです。



令和7年2月、「国際ホテル・レストラン・ショー」能登復興支援コーナーでの展示



档の新芽

連載

SERIES